

第2回自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方検討会

第1回検討会意見と対応

主な意見	対応
<p><検討会の進め方></p> <p>①自動運転技術の普及により何がどのように変わるのか、将来像を共有することが重要</p> <p>②自動運転社会がどのようなになるかの予測と、自動運転技術を活用してどのような社会にしたいかの目標に乖離がないかのチェックも重要</p> <p>③自動運転がどのように都市に普及していくか、将来のシナリオを複数設定し、ある程度の幅を持たせた検討が必要</p> <p>④今後の議論として、具体的な論点の整理や都が主体となる内容と民間主体で都が支援していく内容とを区別した整理が必要</p>	<p>①各回において、自動運転技術の活用方法や道路空間・都市づくりの在り方検討により、自動運転社会の将来ビジョンを提示し共有</p> <p>②随時、国の自動運転ロードマップや民間の技術開発・サービス取組の状況と本検討の展開方法・スケジュール等との乖離を確認・修正</p> <p>③今後、自動運転の技術レベルの進展や普及状況、段階的な都市づくりの展開方法等の複数シナリオによる検討も考慮</p> <p>④各回において、論点を整理するとともに、今後の実現方法・体制と合わせて、都と民間の役割分担を整理</p>
<p><検討すべき項目について></p> <p>⑤自動運転技術の普及により、路上での乗降や荷捌きについての駐停車空間の充実やルールの見直しが求められるため、路上及び路外駐車場と自動運転車両の在り方の検討が必要</p> <p>⑥自動運転技術の普及は段階的に進むため、短期的な課題として、路上における有人走行と無人走行（レベル4以上）の共存方法の検討が必要</p> <p>⑦住宅地等における自動運転車両の通行可否や交通規制の区域を踏まえた地区交通の視点での検討が必要</p> <p>⑧乗務員の確保が難しくなっている自然環境共生域等において、フィーダーバスとしての自動運転の活用検討が必要</p> <p>⑨現在の自動運転は主に都市部での活用が検討されており、過疎地域についてもどのようなサービスが実現できるか検討が必要</p> <p>⑩自動運転技術の普及により外出率の増加や鉄道から自動車への利用転換が考えられるが、これまでの公共交通を中心とした都市構造を守るため、過剰な自動運転車両の抑制の検討も必要</p>	<p>⑤今後、自動運転技術が普及した際の路上及び路外駐車場と自動運転車両の在り方を検討</p> <p>⑥上記③と合わせて検討</p> <p>⑦今後、住宅地等の地区特性に応じ、自動運転車両の抑制や速度制限等の交通施策も合わせて検討</p> <p>⑧今回、自然環境共生域等における自動運転の活用方法の一つとして検討</p> <p>⑨今回、過疎地域や中山間地域等における自動運転の活用方法を検討</p> <p>⑩今後、鉄道等の公共交通を中心としたコンパクトシティを基本とした都市づくりの在り方を検討するとともに、地区に応じた自動運転車両の抑制等の交通施策も合わせて検討</p>